

3 年齢階級別の自殺者数の推移

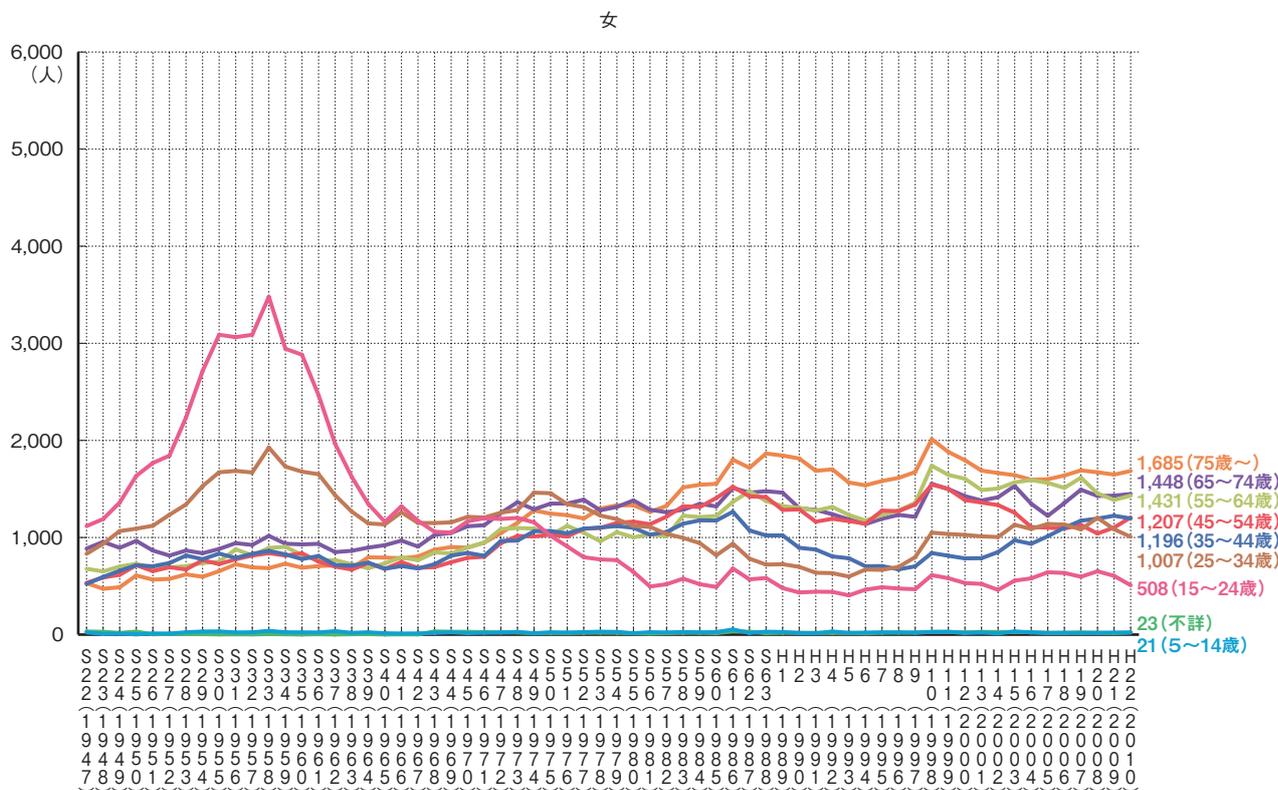
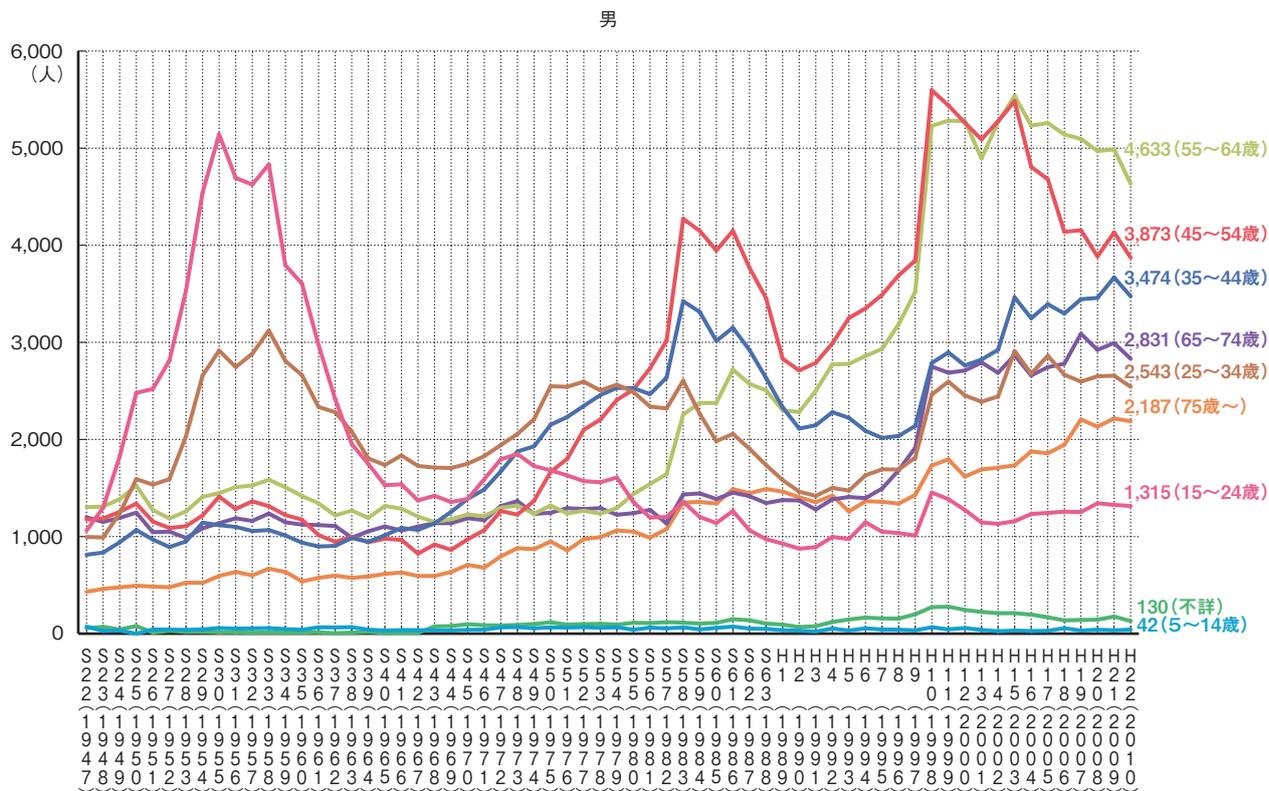
年齢階級別の自殺者数の推移について男女別に見ると、人口動態統計によれば（第1-6図）、男性については、昭和30年前後に15～34歳の階級が、60年前後に35～54歳の階級が、平成10年以降に45～64歳の階級がそれぞれ大きな山を形成している。女性については、昭和30年前後に15～34歳の階級が山を形成した後は、男性のような大きな変動はみられない。

昭和30年前後は男女とも15～24歳及び25～34歳の階級で自殺者数が増加しており、先述したとおり戦後の社会の価値観の変化や戦時体験の影響とする説もある。昭和60年前後は男性のみが増加しており、中でも35～64歳の働き盛りの中高年世代の自殺者が多く、円高

不況が原因という説もある。

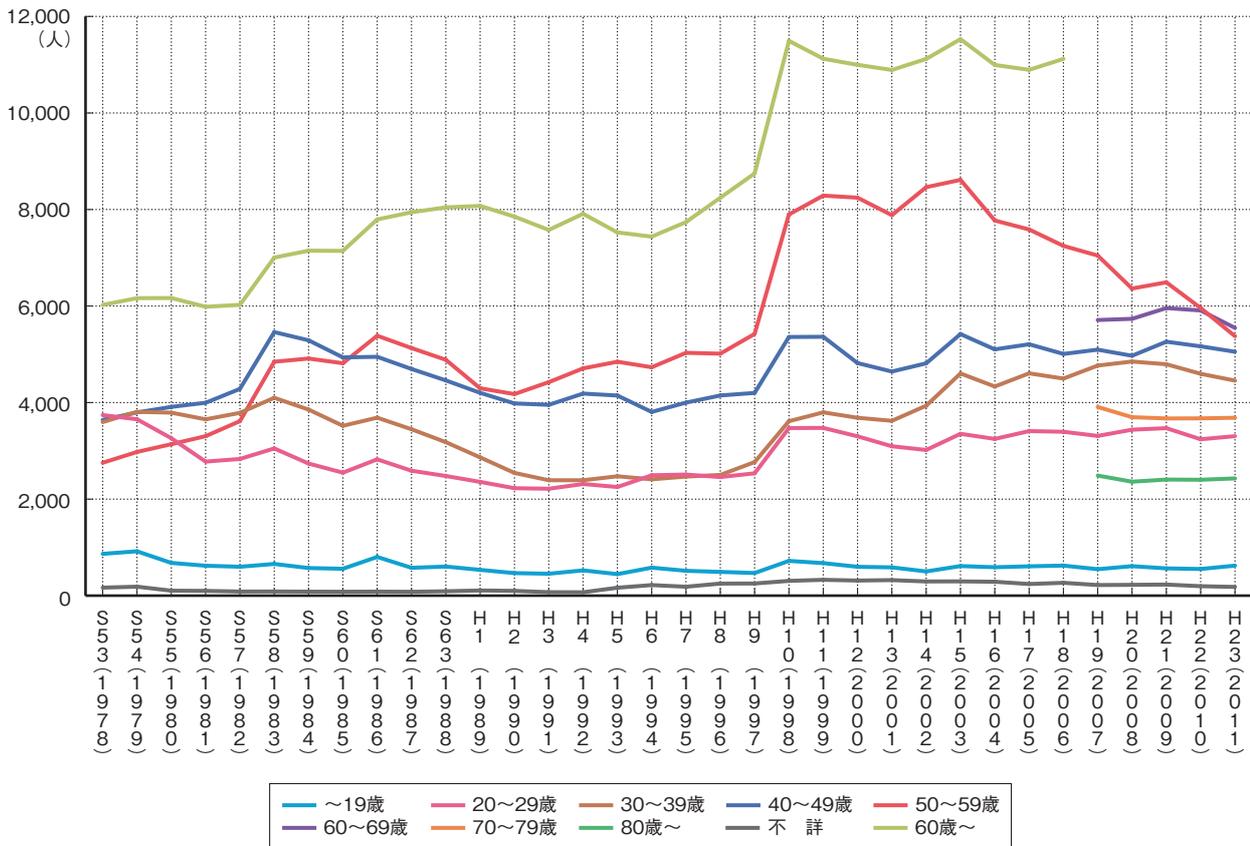
平成10年の急増では、特に男性の25～74歳の各階級で大きく自殺者が増加しているが、その後は25～34歳の階級は横ばい、35～44歳の階級は増加する傾向にあるのに対し、45～54歳の階級は15年を境に大きく減少し、55～64歳の階級も15年から減少傾向にある。また、65～74歳の階級は横ばいである。なお、75歳以上の階級は10年の際にもあまり急増せず、一貫してなだらかに増加している。自殺統計を見ると（第1-7図）、近年30歳代はやや増加傾向にある一方、50歳代は15年を境に減少傾向にあり、年齢階級の設定が人口動態統計とは違うものの、おおむね同様の傾向を示している。

第1-6図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の長期的推移



5~14歳 15~24歳 25~34歳 35~44歳 45~54歳 55~64歳 65~74歳 75歳~ 不詳

資料：厚生労働省「人口動態統計」



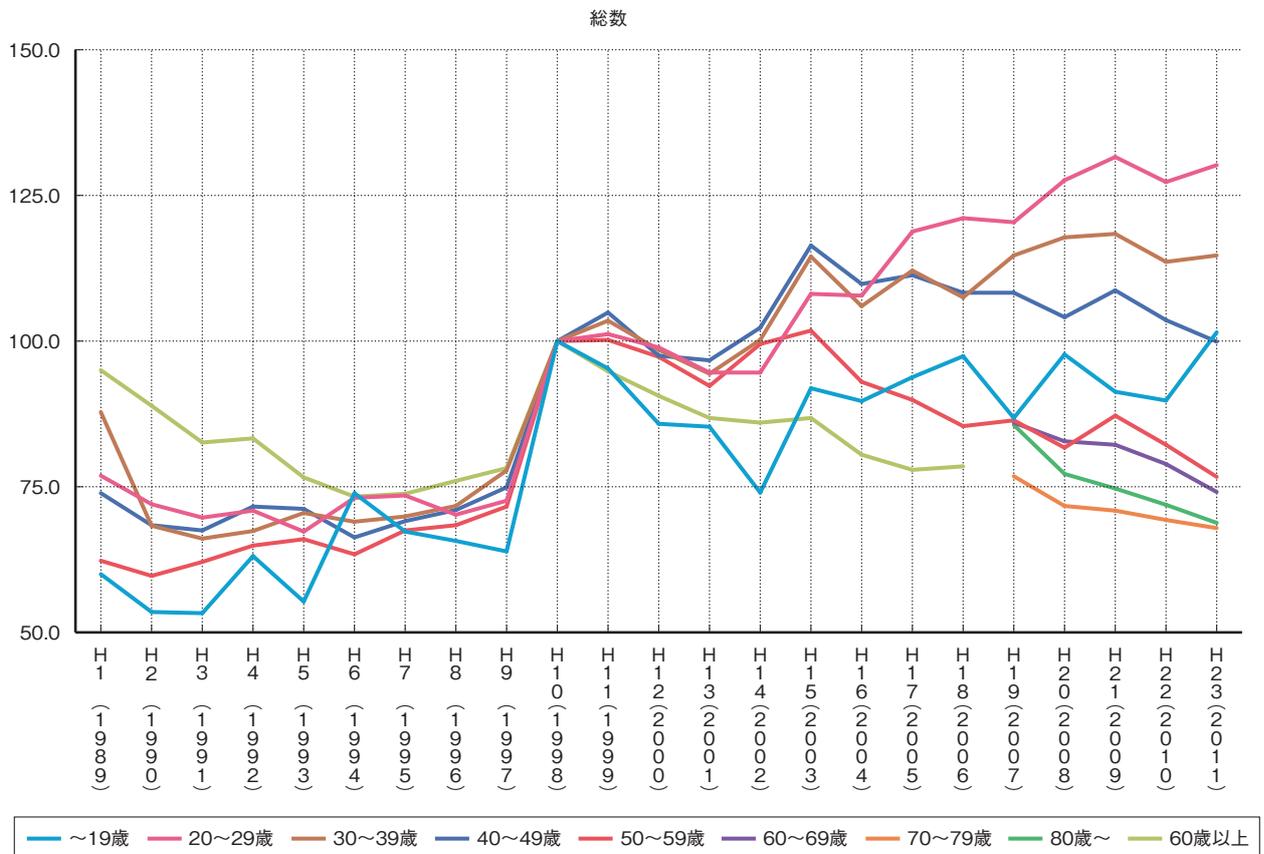
注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。
資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

平成10年前後での年齢階級別の自殺の動向を更に詳しく見るため、自殺統計により各年齢階級の平成10年の自殺死亡率を100とした推移を見ると（第1-8図）、全体的には20歳代及び30歳代で自殺死亡率が高まる傾向にあるのに対し、40歳代以上では低下傾向にある。また、20歳代未満では14年にいったん大きく減少したものの、その後上昇傾向にある。さらに男女別に見ると、男性は、20歳代が10年以前から一貫して上昇しており、30歳代は15年にさらに高まった後、そのまま高止まりしている。40歳代以上の各年代は15年をピークに低下している。19歳以下の年代は14

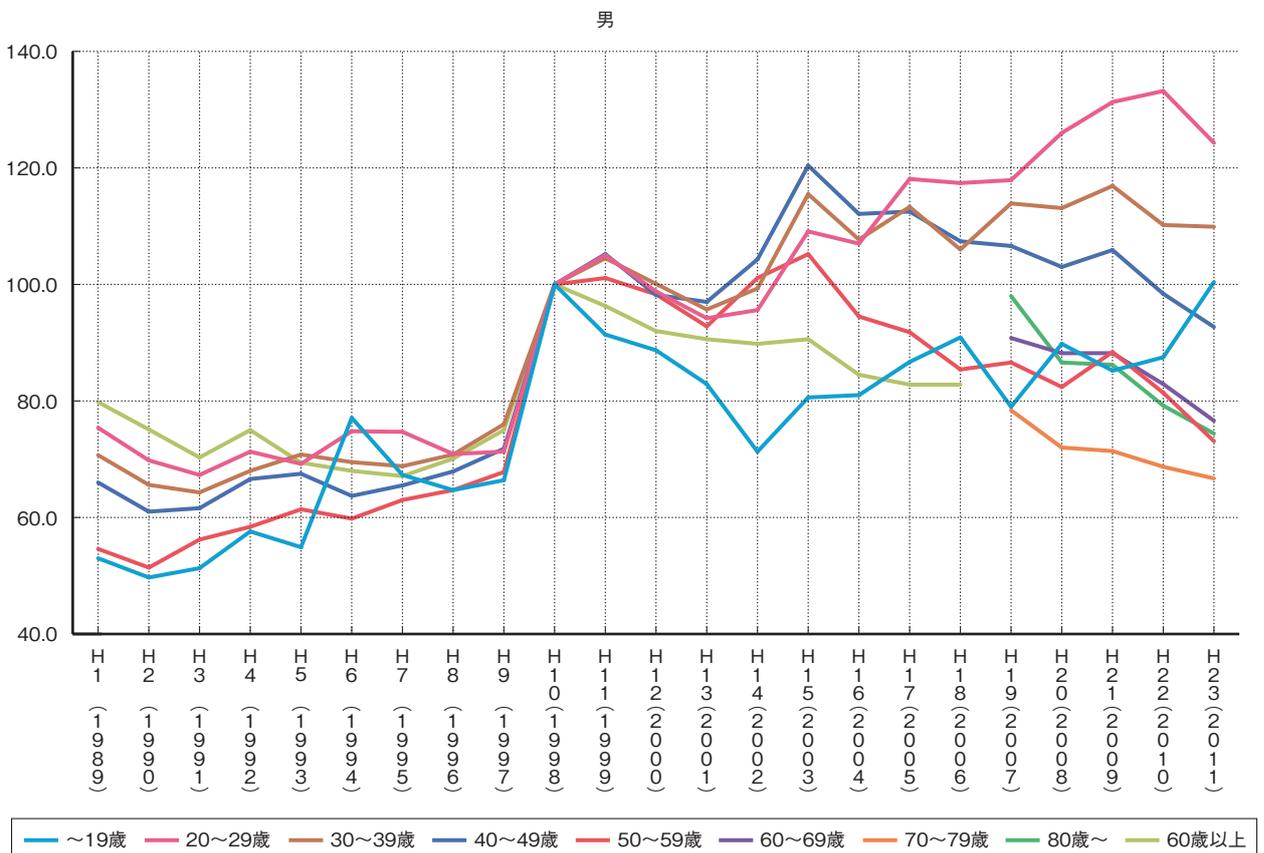
年以降上昇傾向にある。女性は50歳代以上は減少しているが、その他の年代では上昇傾向にあり、特に20歳代～40歳代で著しい。

以上より、自殺者数は平成10年に急増しその後も高止まりしているものの、その要因は「中高年男性の自殺の増加」だけで説明できるものではなく、変化があることが分かる。即ち、10年の急増の主な要因となった中高年男性の自殺は依然として多いものの、傾向としては減少傾向にあり、男性・女性とも若い世代の自殺が増加傾向にあることが見て取れる。

第1-8図 平成10年の値を100とした年齢階級別の自殺死亡率の推移

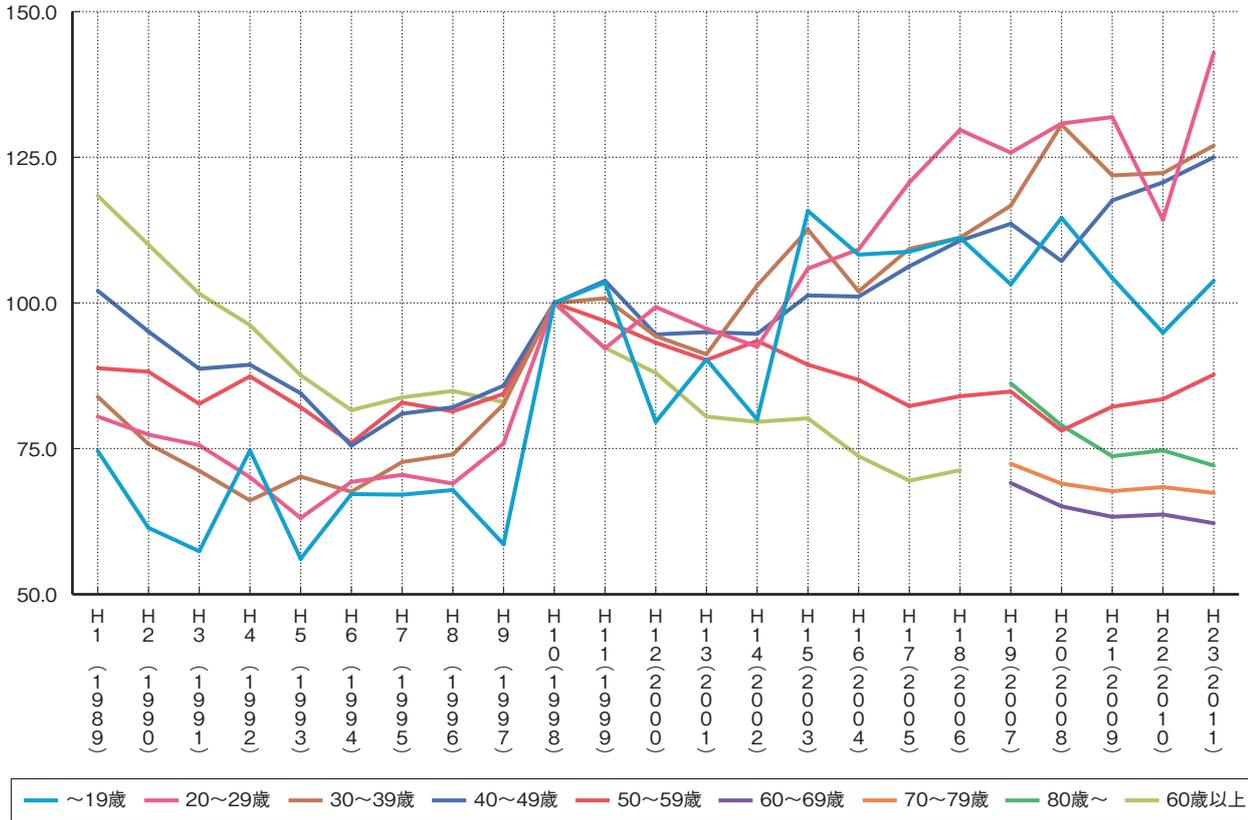


注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。



注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。

女



注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。
資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にある。年代別の死因順位を見ると（第1-9表）、15~39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっており、男女別に見ると、男性では20~44歳という、若手社会人として社会を牽引する世代において死因順位の第1位が自殺となっており、女性では15~34歳のさら

に若い世代で死因の第1位が自殺となっている。

こうした状況は国際的に見ても深刻であり（第1-10図）、15~34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは先進国7カ国では日本のみで、その死亡率も他の国に比べて高いものとなっている。

第1-9表 平成22年における死因順位別に見た年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14	不慮の事故	121	2.1	21.9	悪性新生物	116	2.0	21.0	自殺	63	1.1	11.4
15～19	自殺	451	7.5	31.7	不慮の事故	424	7.0	29.8	悪性新生物	150	2.5	10.5
20～24	自殺	1,372	21.8	49.8	不慮の事故	553	8.8	20.1	悪性新生物	217	3.4	7.9
25～29	自殺	1,630	22.8	47.4	不慮の事故	514	7.2	15.0	悪性新生物	372	5.2	10.8
30～34	自殺	1,920	23.4	39.7	悪性新生物	760	9.3	15.7	不慮の事故	570	6.9	11.8
35～39	自殺	2,345	24.2	31.0	悪性新生物	1,598	16.5	21.2	心疾患	756	7.8	10.0
40～44	悪性新生物	2,779	32.1	27.3	自殺	2,325	26.9	22.9	心疾患	1,106	12.8	10.9
45～49	悪性新生物	4,731	59.4	32.6	自殺	2,465	30.9	17.0	心疾患	1,735	21.8	11.9
50～54	悪性新生物	8,690	114.2	39.5	心疾患	2,636	34.6	12.0	自殺	2,615	34.4	11.9
55～59	悪性新生物	17,815	205.8	45.3	心疾患	4,674	54.0	11.9	脳血管疾患	3,185	36.8	8.1
60～64	悪性新生物	31,925	317.5	48.3	心疾患	8,069	80.3	12.2	脳血管疾患	5,180	51.5	7.8

男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14	不慮の事故	93	3.1	26.6	悪性新生物	63	2.1	18.0	自殺	42	1.4	12.0
15～19	不慮の事故	312	10.1	33.2	自殺	301	9.7	32.0	悪性新生物	93	3.0	9.9
20～24	自殺	1,014	31.4	51.7	不慮の事故	425	13.2	21.7	悪性新生物	134	4.2	6.8
25～29	自殺	1,201	33.0	49.8	不慮の事故	395	10.8	16.4	悪性新生物	197	5.4	8.2
30～34	自殺	1,342	32.1	42.2	不慮の事故	436	10.4	13.7	悪性新生物	321	7.7	10.1
35～39	自殺	1,719	34.9	35.3	悪性新生物	624	12.7	12.8	心疾患	584	11.9	12.0
40～44	自殺	1,755	40.1	26.5	悪性新生物	1,185	27.0	17.9	心疾患	866	19.8	13.1
45～49	悪性新生物	2,257	56.2	23.6	自殺	1,862	46.4	19.5	心疾患	1,391	34.6	14.5
50～54	悪性新生物	4,678	122.9	32.0	心疾患	2,075	54.5	14.2	自殺	2,011	52.8	13.7
55～59	悪性新生物	10,735	249.9	39.6	心疾患	3,722	86.6	13.7	脳血管疾患	2,337	54.4	8.6
60～64	悪性新生物	20,891	423.2	45.3	心疾患	6,283	127.3	13.6	脳血管疾患	3,634	73.6	7.9

女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14	悪性新生物	53	1.8	26.1	不慮の事故	28	1.0	13.8	自殺	21	0.7	10.3
15～19	自殺	150	5.1	31.2	不慮の事故	112	3.8	23.3	悪性新生物	57	1.9	11.9
20～24	自殺	358	11.6	45.3	不慮の事故	128	4.2	16.2	悪性新生物	83	2.7	10.5
25～29	自殺	429	12.2	41.9	悪性新生物	175	5.0	17.1	不慮の事故	119	3.4	11.6
30～34	自殺	578	14.3	34.8	悪性新生物	439	10.9	26.4	不慮の事故	134	3.3	8.1
35～39	悪性新生物	974	20.5	36.2	自殺	626	13.1	23.3	不慮の事故	174	3.7	6.5
40～44	悪性新生物	1,594	37.3	45.1	自殺	570	13.4	16.1	心疾患	240	5.6	6.8
45～49	悪性新生物	2,474	62.6	49.8	自殺	603	15.3	12.1	脳血管疾患	421	10.7	8.5
50～54	悪性新生物	4,012	105.6	54.4	脳血管疾患	650	17.1	8.8	自殺	604	15.9	8.2
55～59	悪性新生物	7,080	162.4	58.1	心疾患	952	21.8	7.8	脳血管疾患	848	19.5	7.0
60～64	悪性新生物	11,034	215.6	55.3	心疾患	1,786	34.9	9.0	脳血管疾患	1,546	30.2	7.8

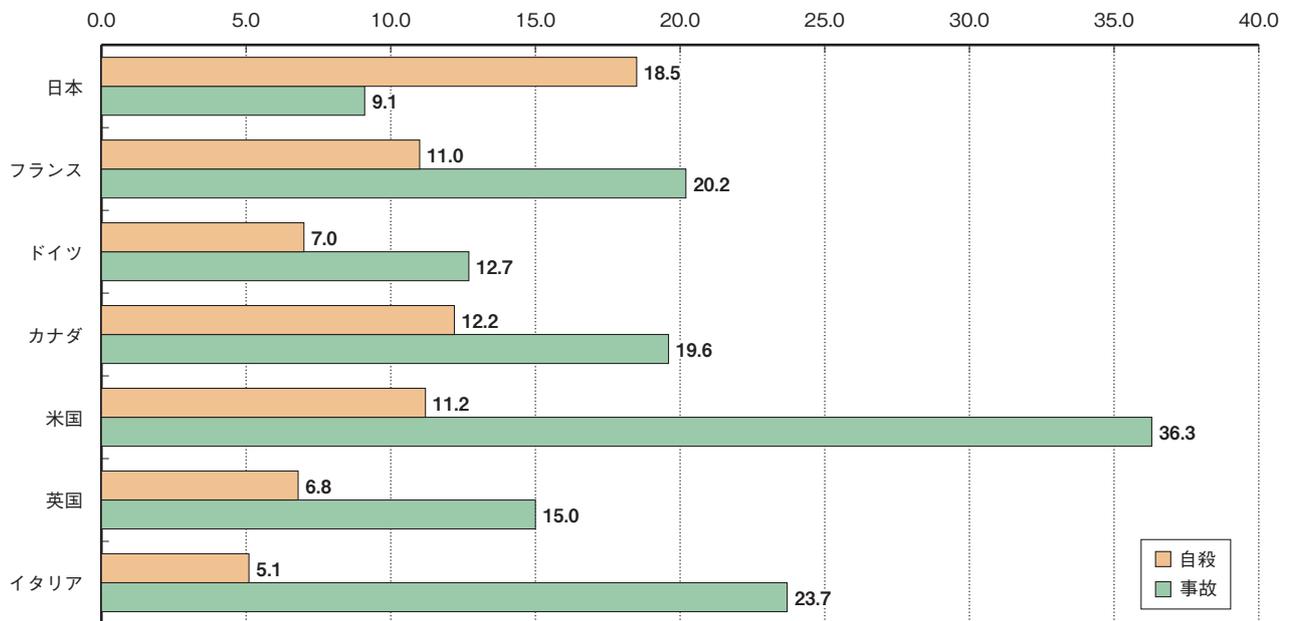
資料：厚生労働省「人口動態統計」

第1-10図

先進7カ国の年齢階級別人口10万人対死亡者数（15~34歳、死因の上位3位（自殺・自傷、事故・後遺症、悪性新生物））

	日本 2006			フランス 2005			ドイツ 2006			カナダ 2004		
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率
第1位	自殺	5,692	18.5	事故	3,225	20.2	事故	2,463	12.7	事故	1,715	19.6
第2位	事故	2,786	9.1	自殺	1,752	11.0	自殺	1,349	7.0	自殺	1,071	12.2
第3位	悪性新生物	1,816	5.9	悪性新生物	1,100	6.9	悪性新生物	1,079	5.6	悪性新生物	517	5.9

	米国 2005			英国 2006			イタリア 2003			韓国（参考） 2006		
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率
第1位	事故	29,849	36.3	事故	2,389	15.0	事故	3,506	23.7	事故	1,962	13.1
第2位	殺人	10,156	12.4	悪性新生物	1,127	7.1	悪性新生物	1,105	7.5	自殺	1,885	12.6
第3位	自殺	9,183	11.2	自殺	1,082	6.8	自殺	752	5.1	悪性新生物	1,087	7.2



資料：世界保健機関資料より内閣府作成